

学会活動報告

「実践活動報告/症例報告の活性化に向けたスポーツ栄養士と研究者のマッチング企画」開催報告

寺田 新

東京大学 大学院総合文化研究科

現在、日本スポーツ栄養学会では、スポーツ現場で得られた経験や知見を報告する「実践活動報告」ならびに「症例報告」の執筆・投稿を積極的に支援しています。論文執筆経験のないスポーツ栄養士の方を対象とした執筆サポート活動の一環として「執筆支援ワークショップ」をこれまで行ってきました。その中で、「データはあるけれど、論文・ショートレポートを最初から自分一人の力だけで書くのは難しい」、「データを提供するので、研究者の方に一緒に書いていただきたい」というスポーツ栄養士の方からの声を多数いただきました。一方、研究者からも「実際のスポーツ現場でのデータ・知見を入手するのが難しい」、「現場での知見を今後の研究アイデアにつなげたい」という悩みや希望をうかがっていました。そこで、「現場でのデータ・経験を持っている」スポーツ栄養士と「論文執筆経験を持っている」研究者が、それぞれの強みを活かしながら共同作業を行えば、実践活動報告・症例報告の執筆・投稿を今後より一層促進できると考えられます。本学会は、スポーツ現場で活動するスポーツ栄養士と研究者が集うという他の学会にはない特徴がありますが、現在のところ、スポーツ栄養士と研究者が出会い、論文執筆に向けた話し合いを行う場がほとんどない状況となっています。そこで、スポーツ栄養士と研究者が出会い、実践活動報告/症例報告の執筆に向けた話し合いを行える場として、「実践活動報告/症例報告の活性化に向けたスポーツ栄養士と研究者のマッチング企画」を開催することにしました(図1)。

まず、2023年1月28日と2月25日にそれぞれ研究者

とスポーツ栄養士を対象とした説明会(参加登録者数:研究者32名、スポーツ栄養士68名)を行い、3月19日に合同マッチング企画を開催しました(いずれもオンラインでの開催)。合同マッチング企画には、13名の研究者と15名のスポーツ栄養士にご参加いただきました。研究教育支援部会から全体説明を行った後、研究者から「執筆・指導方針」、「関心のある分野」、「現在データがない方に対する対応」などについてそれぞれの意向・希望を簡単にご説明いただきました。その後、研究者がブレイクアウトルームに分かれ、スポーツ栄養士が自分の希望にあった研究者のところを訪ねるといった形で個別説明会・マッチングが行われました。マッチング企画後に行ったアンケートでは、多くの参加者が執筆のパートナーを見つけることができたという回答が得られており、実践活動報告/症例報告を書きたいスポーツ栄養士の方とそれを支援したい研究者の方が知り合う大変良い機会になったと思われまます。また、マッチングが成立したペアの中から、すでに学会発表やショートレポートの投稿・採択に至ったケースもでてきています(この第16号サプリメントにも、マッチング企画によるショートレポートが2本掲載されています!)

執筆マッチング企画を含め、実践活動報告/症例報告の執筆を支援・活性化するためのイベントを今後も定期的に開催していく予定です。スポーツの現場で得られたデータをお持ちで、「ショートレポートを執筆してみたい」と考えているスポーツ栄養士の方は、ぜひ一度参加してみてください。

マッチング企画の目的と概要

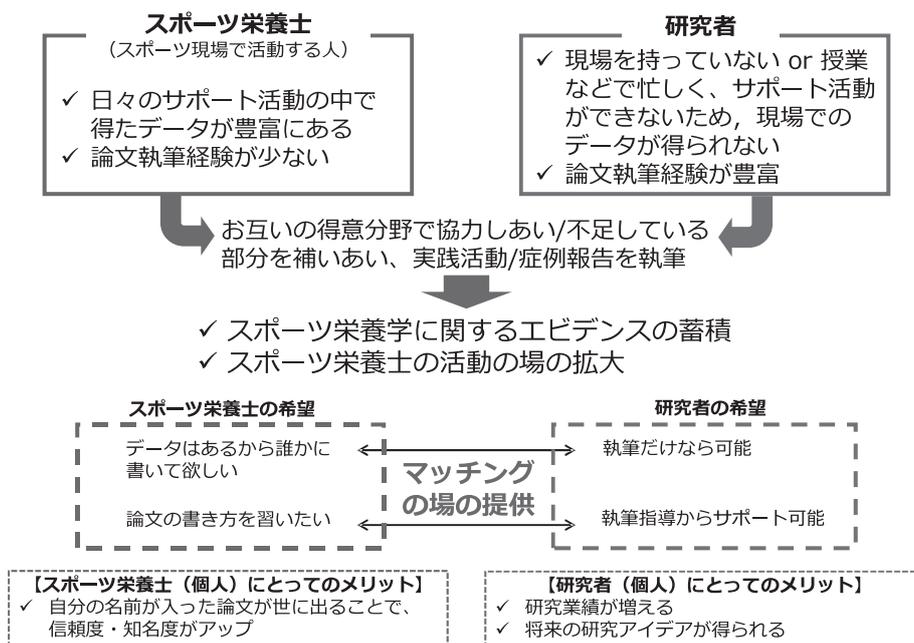


図 1